

ラン科植物交配種の開花について(その3)

磯部実

本園ではラン科植物、特にカトレヤ属とその近縁属を中心に鉢花展示用のための新品種作出及び類縁関係を探るために、開園当初より系統保存している原種を用いた交配を試みた。作出した交配種のうち本紙12号(平成3年)で6品種、23号(平成14年)で10品種、計16品種を報告した。

今回は23号の報告後からこれまでに新しく開花した4種類の交雑組み合わせについてその特徴を記録する。なおカトレヤ系は最近、属名の変更がサンダーリストで行われたが、混乱を防ぐため、これまで通りとした。以下4交配組み合わせは現在まで未登録である。

C. (C. General Patton × C. guttata alba)

偽球茎は長紡錘形。長さ約20cm、幅約7cmの長楕円形の葉を1～2枚展開する。展開する葉の中心から花茎を伸ばし、2～3個の花をつける。花の自然開帳幅は約100cm。花卉、がく片は白色。花片は幅広く、がく片はやや細長い。唇弁は丸く、周辺は大きく波打ち、白色、中心部(喉)は黄色。開花期は秋。交配番号705。(写真1)



写真1. C. (C. General Patton × C. guttata alba)



写真3. × Lc. (C. maxima × Lc. Bonanza)

× Smb. (L. pumila × Schom. superbians)

偽球茎は紡錘形。長さ20～30cm、幅約5cmの長楕円形の葉を1～2枚展開する。展開する葉の中心から花茎を伸ばし、1～3個の花をつける。花の自然開帳幅は約100cm。花卉、がく片は薄桃色。花片はやや幅広、がく片は細長い。唇弁は基部は筒状で先端部は丸く、周辺は大きく波打ち、桃紫色、中心部(喉)は橙色。開花期は冬。交配番号714。(写真2)

× Lc. (C. maxima × Lc. Bonanza)

偽球茎は長紡錘形。長さ20～30cm、幅5～7cmの長楕円形の葉を1枚展開する。展開する葉の中心から花茎を伸ばし、2～6個の花をつける。花の自然開帳幅は約100～130cm。花卉、がく片は桃色～桃紫色。花片は幅広く、がく片は細長い。唇弁は丸く、周辺は大きく波打ち、桃紫色、中心部(喉)は黄橙色。開花期は秋～冬。交配番号745、748 749。(写真3)

× Lc. (Lc. Stephen Oliver Fouraker × C. percivaliana)

偽球茎は紡錘形。長さ約25cm、幅7cmの長楕円形の葉を展開する。展開する葉の中心から花茎を伸ばし、1～3個の花をつける。花の自然開帳幅は約110cm。花卉、がく片は薄桃色。花片は幅広く、がく片はやや細長い。唇弁は丸く、周辺は大きく波打ち、桃紫色、中心部(喉)は黄色。開花期は冬。交配番号809。(写真4)



写真2. × Smb. (L. pumila × Schom. superbians)



写真4. × Lc. (Lc. Stephen Oliver Fouraker × C. percivaliana)